

鞠智城跡内に残存する西南戦争時の塹壕跡

鞠智城・温故創生館 岡本 真也

1. はじめに

国史跡鞠智城跡の指定地内に西南戦争の台場跡と考えられる遺構が存在することを知ったのは、地元の方々からの情報であった。周辺から小銃弾を拾った話なども一緒に伺った。その後、城内を散策中に、指定地内に合計8基の台場跡と考えられる遺構を確認した。

これらの遺構の記録の必要性を感じたため、所在位置を地図に落とし、写真撮影および略図の作成を行った。不十分ではあるが紹介することにした。

2. 山鹿から菊池への戦闘概要

山鹿での戦闘が開始されたのが、明治10年(1877年)2月26日。北上を目指す薩軍は、3月4日、三加和の板楠、十町周辺まで進撃をしていたにもかかわらず、「田原坂大敗」という誤報を聞き、山鹿まで撤退する。その後、官軍の援軍が南関方面から続々と押し寄せ、山鹿口の鍋田台地周辺を主戦場として戦闘状態が続く。薩軍側は4番大隊長・人斬り半次郎こと桐野利秋、官軍側は第三旅団司令長官・陸軍少将の三浦梧楼が指揮。

しかし、田原坂陥落の翌日3月21日、官軍が山鹿を占領する。薩軍は菊池限府をはじめ各方面に撤退を開始。その後、3月30日限府の戦が始まる。その間、南東方面へ撤退する薩軍に対して、北西方面から官軍が追う形で水島、袈裟尾などの各地で戦いを繰り広げる。鞠智城が所在する山鹿市菊鹿町大字米原・木野、菊池市大字木野堀切は、水島から袈裟尾に移動する路線上に所在する。

3. 遺構確認の経緯

○鞠智城内1号(堀切1号)遺構:菊池市堀切在住:坂本博史氏(昭和23年1月6日生)からの情報

実父の坂本兼男氏(大正8年11月25日生れ)や祖父の坂本元雄氏(明治30年生れ)から「西南戦争時、下から上がってくる兵隊を狙い撃ちするために造った穴」という言い伝えを聞いていたとのこと。

平成30年6月8日(金)、現地を案内していただく。

○鞠智城内2号(堀切2号)遺構:菊池市堀切在住:中原定蔵氏(昭和4年7月22日生)からの情報

実父の中原定治氏(明治38年生)、祖父の中原仁平氏(明治10年代生)や近所の河津新太郎氏(明治生れ)から「西南戦争時の塹壕跡で、木野神社の南側にある高まりに布陣する敵(薩軍?)と撃ち合っていた場所」「官軍は北側から攻撃して、薩軍は南側で応戦した」という言い伝えを聞いていたとのこと。

平成30年6月24日(日)、現地を案内していただく。

○鞠智城内3号(堀切3号)遺構～鞠智城内8号(米原4号)遺構

令和元年～令和3年に城内散策中に発見。

4. 遺構の状況(図1, 2, 7)

○鞠智城内1号(堀切1号)遺構(図3, 4)(官軍築造と推定)

直径約10m深さ約1mの円形状の掘り込みが確認できる。標高約123mに位置する。土盛は確認できず、武器や食料を備蓄する兵站基地的な遺構、もしくは当時の住民の避難壕跡の可能性が考えられる。

○鞠智城内2号(堀切2号)遺構(図5, 6)(官軍築造と推定)

幅約2m、長さ約20mの溝状の掘り込みが確認できる。崖の落ち際に地形に沿って土盛りをした溝が深さ約0.2～0.6mで約20m続いており、掘り込みの始点と終点も明確である。中原氏の証言では、昔はクヌギ林で深さは腰くらいまで確認できたという。3, 4号遺構に相対する位置関係にある。標高約122mに位置する。

○鞠智城内3号(堀切3号)遺構(図8, 9)(薩軍築造と推定)

長軸約6m、短軸約2.5m、深さ約0.2～0.4mの馬蹄形の掘り込みが確認できる。地形の落ち際に存在し、2号遺構に相対する位置関係にある。標高約116mに位置する。

○鞠智城内4号(堀切4号)遺構(図8, 10)(薩軍築造と推定)

長軸約12m、短軸約6.5m、深さ約0.2～0.4mで西側の地形に沿った溝及び東側に土盛を配したやや三角形の形状をした掘り込みが確認できる。北西側に旧里道が通っている。3号遺構と同様、地形の落ち際に存在している。2号遺構との距離は約20mである。標高約119mに位置する。

○鞠智城内5号(米原1号)遺構(図11, 12) (薩軍築造と推定)

長軸約10m、短軸約5m、深さ約0.2～0.4mの楕円形の掘り込みと土盛が確認できる。長者山墓地の北側、標高約151mに位置し、米原集落方面への眺望が非常に良好であり、当時の旧道が見渡せる場所に所在する。

○鞠智城内6号(米原2号)遺構(図13, 14) (薩軍築造と推定)

長軸約20.5m、短軸約5.5m、深さ約0.1～0.3mの長い溝状の土手が釣針形に確認できる。煤見(ススミ)ヶ御所の上、標高約167mに位置し、米原集落方面への眺望が非常に良好であり、当時の旧道の西側高所に所在する。

○鞠智城内7号(米原3号)遺構(図15, 16) (薩軍築造と推定)

長軸約6m、短軸約4.5m、深さ約0.1～0.2mの地形に沿ってL字状の浅い掘り込みと土盛状の高まりがわずかに確認できる。標高約164mに位置する。遺構の残存状況はあまり良くないが、当時の旧道より高所に所在する。

○鞠智城内8号(米原4号)遺構(図17, 18) (薩軍築造と推定)

長軸約8.5m、短軸約5.5m、深さ約0.2～0.4mの馬蹄形を呈する掘り込みと土盛を確認した。シャカンドンの南側の高まり、標高約168mに位置する。遺構の残存状況は非常に良く、米原1号～3号遺構と同様、山鹿方面から追撃してくる官軍を狙撃するための薩軍が築造した台場と考えられる。

5. 遺物の状況

泉昭一氏(昭和4年2月21日生れ)から幼少の頃、米原集落内で小銃弾を1個採集された事、中原定蔵氏(昭和4年7月22日生れ)から幼少の頃友人が堀切地内で小銃弾を採集された事、また、堀切在住者から約20～30年前まで袈裟尾にあった大きな枯木に小銃弾が食い込んでいたという話を伺った。

いずれも人差し指の先端程の大きさだったとの証言から西南戦争時の小銃弾(スナイドル銃弾、エンフィールド銃弾等)と考えられる。

6. 文献による記録

明治10年3月30日、薩軍及び官軍の記録にも鞠智城跡周辺での戦闘の様子が記述されている。

◆薩南血涙史(加治木常樹を中心とする薩軍側の生存者同士が陣中日記・実話や口伝などを基に戦記をまとめた数少ない貴重な記録。西南戦争35周年を記念して明治45年・大正元年(1912年)に刊行。)

【限府の戦(明治10年3月30日)の中の記述】

○…袈裟尾原の地たる廣闊にして、守兵寡く、壘間空疎百歩或は二百歩を隔てて壘を築き、守兵僅かに三名或は四名を散布して之を守れり、…

○永井隊(貴島隊○番)は袈裟尾村山鹿間道を守りしが、官軍襲撃甚だ急にして之と激戦多数の死傷者を出し、殆んど支ゆる能はず将に守りを棄てて退き走らんとす、…

◆征西戦記稿(明治22年(1889年)に明治政府の参謀本部陸軍部編纂課が編集し、陸軍文庫より刊行された全四巻の書籍。明治10年の西南戦争に関して、その発端から終結にいたるまでの全般の戦闘状況および日表・名簿・統計書など、あらゆる事項が詳細に記録され、まとめられている。)

【山鹿戦記(明治10年3月30日)の中の記述】

○…賊等壘壁を高塚村米原村の台及び本道と限府市街の西端少距離の処に築き防守す…

○…其中央左翼の兵も奮進して高塚米原台の壘壁を抜く…

これらの文献より、明治10年(1877年)3月30日、薩軍(西郷軍)が山鹿から菊池へと敗走し、官軍(政府軍)が追走する際に築かれた塹壕や陣地の痕跡ではないかと考えられる。いずれの遺構も旧道・旧間道沿いの高台に位置している。

7. まとめと今後の課題

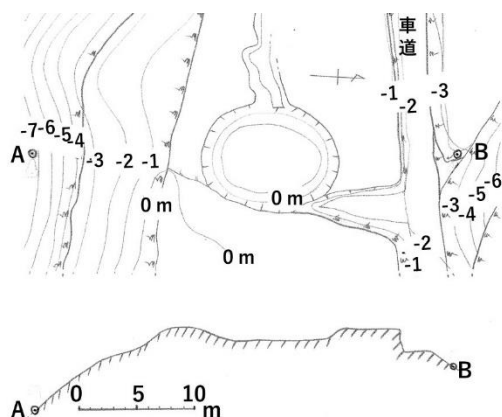
鞠智城跡で発見された台場跡遺構は、西南戦争時、明治10年3月30日前後の戦で、山鹿から菊池へ戦場が移動する際に、撤退する薩軍、追撃する官軍が築造した台場跡(薩軍:鞠智城内3号～8号、官軍:同2号)であると考えられる。しかし、鞠智城内1号(堀切1号)遺構は官軍が築造した簡易な陣地もしくは当時の住民の避難壕であった可能性が高い。

今後、これらの遺構及び地形の厳密な実測図の作成、金属探知機を使用した調査を通して薬莢、雷管や小銃弾などの遺物の詳細分布調査、周辺地域での更なる聞き取り調査や文献調査などを通して、より精度の高い

最後に現地を案内していただいた泉昭一氏、中原定蔵氏、坂本博史氏、現地での指導をいただいた高橋信武氏、調査にご協力いただいた美濃口雅朗氏には深く感謝申し上げます。

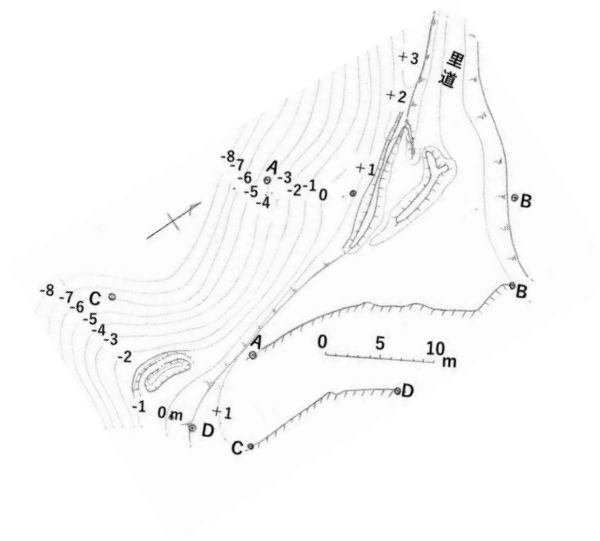


図1 鞠智城内の台場跡位置図



A photograph of a dense bamboo forest. The image shows numerous tall, slender bamboo stalks rising from a forest floor covered in green undergrowth and fallen bamboo debris. The bamboo stalks are light green with distinct nodes. The background is filled with more bamboo, creating a thick canopy.

26



第7図 鞠智城内3号、4号(堀切3号、4号)略図



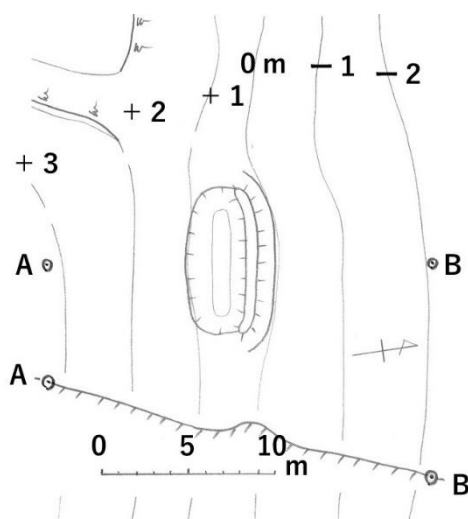
第8図 鞠智城内3号(堀切3号)近景(南より)



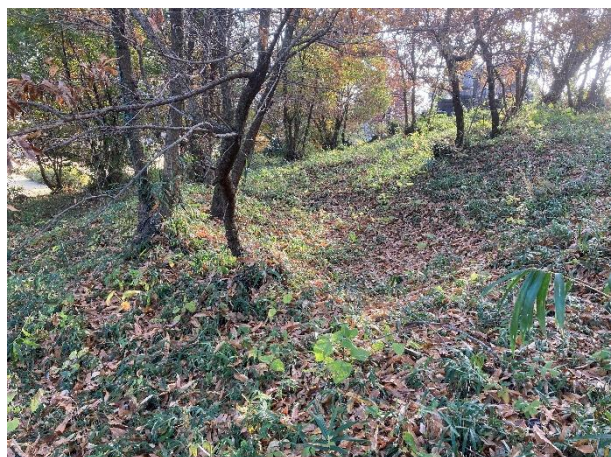
第9図 鞠智城内4号(堀切4号)近景(南東より)



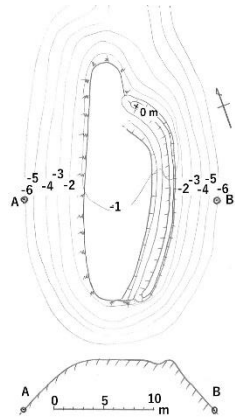
図10 米原地区の台場跡位置図



第11図 鞠智城内5号(米原1号)略図



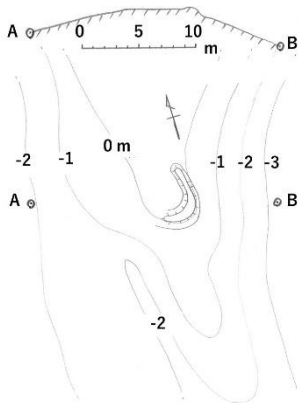
第12図 鞠智城内5号(米原1号)近景(西より)



第13図 鞠智城内6号(米原2号)略図



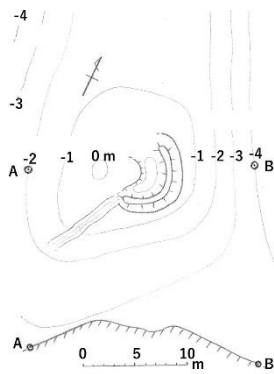
第14図 鞠智城内6号(米原2号)近景(南西より)



第15図 鞠智城内7号(米原3号)略図



第16図 鞠智城内7号(米原3号)近景(北より)



第17図 鞠智城内8号(米原4号)略図



第18図 鞠智城内8号(米原4号)近景(北西より)



図19 堀切地区の塹壕遠景(左右の稜線上)北西より



図20 米原地区の塹壕遠景(左右の稜線上)南東より